

2025年1月号

故郷の人物を知ろう

おん こ ち しん  
たかおか 温故知新

二上山養老寺を再興した父子／更級国政と一専

○更級国政(1503~90)

国政は信州の豪族村上氏の庶子・更級国重くにしげより11代目です。通称は右近太夫うこんだゆう。のち越後高岩城主・更級主膳しげんの養子となります。天文末年(16世紀中頃)より越中に住み、海老城村(高岡市)など数ヶ所を所領としていました。二上山には古代より二上大権現だいごんげんを祀る真言宗「養老寺」(射水神社)をシンボリックな頂点として、多くの社寺がありました。度重なる兵乱で数度焼失しました。国政はその堂社を再建し、次男の僧・一専を再興の祖と定めます。1578年、能登の武将・長連龍ちやうれんりゆうが上杉氏に追われて守山城の神保氏張を頼ると、



国政・一専の伝記(金光院蔵)

国政・一専父子は連龍を保護し、兵糧米などを贈るなど甚だ懇意でした。連龍が越中で数度合戦をした際には国政も協力し、度々戦功を挙げたといえます。

○一専(堀内景広)(1546~1600)

幼名は龍王丸。8歳で高野山にて出家。国政が二上山養老寺を再興するとその祖とされ、「二上山養老寺本覚坊権大僧都法印一専」と名乗りました(のち二上金光院へ移住)。父と共に連龍を支援し、1579年、連龍が湯山(氷見市森寺)城主・河田主膳を攻撃した際も奮戦し、武功を挙げました。その後も各地で活躍したので、能登に戻った連龍は一専を還俗させて、領地も与えました(のち堀内景広、一秀などと改名)。1600年8月9日、関ヶ原の戦い前に北陸で起こった浅井礪の合戦あさいりにおいて、一専は前田軍の殿(最後尾)を務めた連龍に従い、敵兵1人を討ち、2人を負傷させましたが戦死します。浅井礪古戦場(小松市)には一専の供養塔が建てられ、墓は長楽寺(中能登町)にあります。(仁ヶ竹主幹)

問合せ 博物館 図20-1572